

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

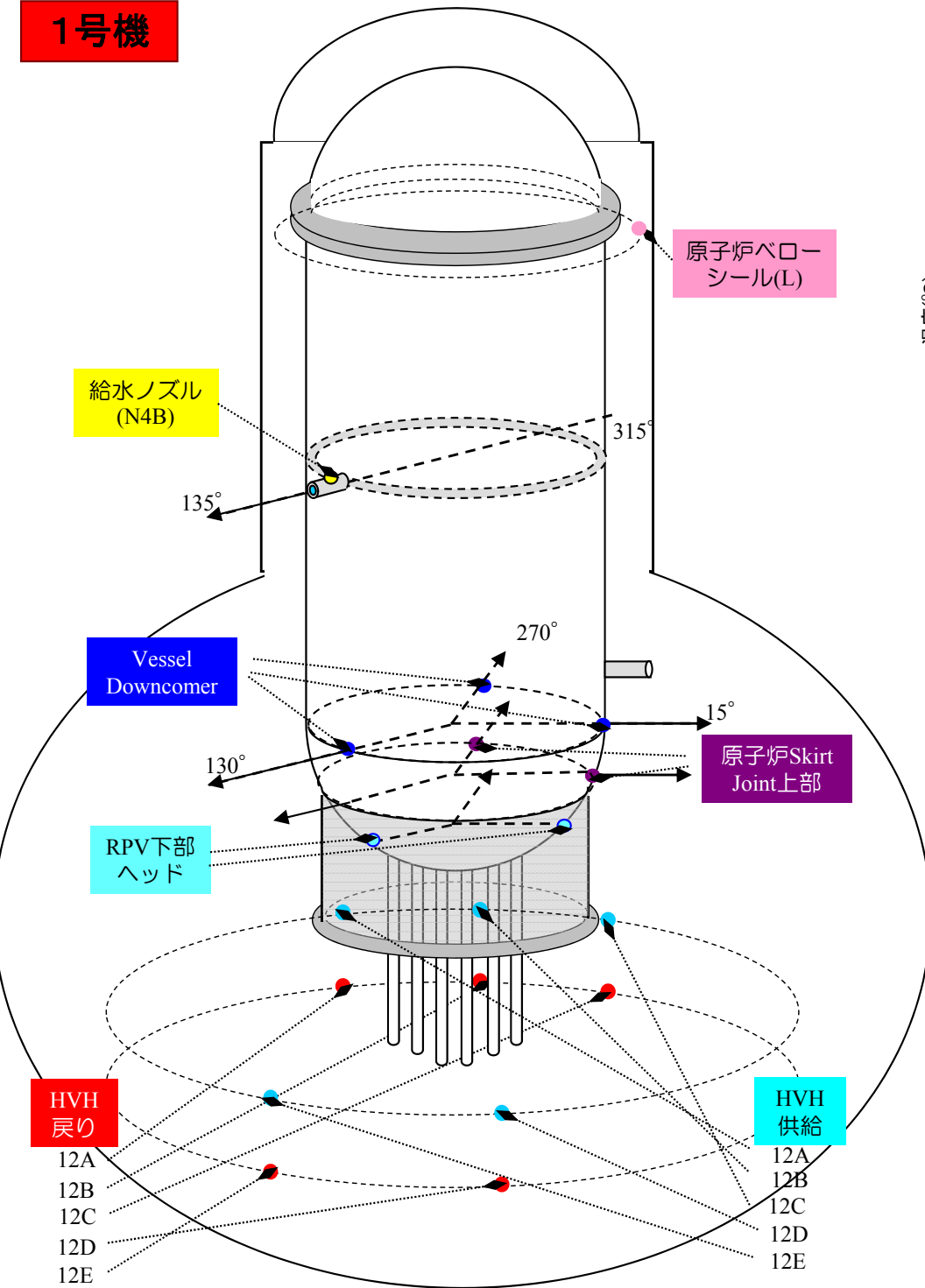
号機	1号機		2号機		3号機	
	6月28日	7月26日	6月28日	7月26日	6月28日	7月26日
原子炉注水状況	給水系：1.4m ³ /h CS系：1.5m ³ /h (6/28 11:00 現在)	給水系：3.1m ³ /h CS系：0.0m ³ /h (7/26 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.3m ³ /h (6/28 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.3m ³ /h (7/26 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.4m ³ /h (6/28 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.4m ³ /h (7/26 11:00 現在)
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：22.5℃ 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1)：22.4℃ VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：22.4℃ (6/28 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：25.8℃ 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1)：25.7℃ VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：25.6℃ (7/26 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：28.2℃ RPV温度 (TE-2-3-69R)：28.7℃ (6/28 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：31.7℃ RPV温度 (TE-2-3-69R)：31.9℃ (7/26 11:00 現在)	RPV下部ヘッド温度 (TE-2-3-69L1)：25.8℃ スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1)：25.8℃ RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1)：24.9℃ (6/28 11:00 現在)	RPV下部ヘッド温度 (TE-2-3-69L1)：29.5℃ スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1)：29.3℃ RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1)：28.5℃ (7/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 内温度	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：22.7℃ HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：22.3℃ (6/28 11:00 現在)	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：26.0℃ HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：25.7℃ (7/26 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：28.8℃ SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1)：28.3℃ (6/28 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：32.2℃ SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2- 16B (TE-16-114G#1)：31.6℃ (7/26 11:00 現在)	格納容器空調機戻り空気温度 (TE-16-114A)：25.8℃ 格納容器空調機供給空気温度 (TE-16-114F#1)：24.2℃ (6/28 11:00 現在)	格納容器空調機戻り空気温度 (TE-16-114A)：29.6℃ 格納容器空調機供給空気温度 (TE-16-114F#1)：27.9℃ (7/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 圧力	1.29kPa _g (6/28 11:00 現在)	1.31kPa _g (7/26 11:00 現在)	3.93kPa _g (6/28 11:00 現在)	3.94kPa _g (7/26 11:00 現在)	0.28kPa _g (6/28 11:00 現在)	0.30kPa _g (7/26 11:00 現在)
窒素封入流量 ※1	RPV：27.46N ^m /h PCV：-N ^m /h ※2 (6/28 11:00 現在)	RPV (RVH)：13.73N ^m /h (JP)：14.19N ^m /h ※4 PCV：-N ^m /h ※2 (7/26 11:00 現在)	RPV：13.35N ^m /h PCV：-N ^m /h ※2 (6/28 11:00 現在)	RPV：13.35N ^m /h PCV：-N ^m /h ※2 (7/26 11:00 現在)	RPV：16.32N ^m /h PCV：-N ^m /h ※2 (6/28 11:00 現在)	RPV：16.32N ^m /h PCV：-N ^m /h ※2 (7/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 水素濃度 ※3	A系：0.00vol% B系：0.00vol% (6/28 11:00 現在)	A系：0.00vol% B系：0.00vol% (7/26 11:00 現在)	A系：0.03vol% B系：0.03vol% (6/28 11:00 現在)	A系：0.03vol% B系：0.03vol% (7/26 11:00 現在)	A系：0.03vol% B系：0.03vol% (6/28 11:00 現在)	A系：0.01vol% B系：0.02vol% (7/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 放射能濃度 (Xe135)	A系：ND(5.90E-04Bq/cm ³ 以下) B系：1.06E-03Bq/cm ³ (6/28 11:00 現在)	A系：6.40E-04Bq/cm ³ B系：1.10E-03Bq/cm ³ (7/26 11:00 現在)	A系：ND(1.7E-01Bq/cm ³ 以下) B系：ND(1.5E-01Bq/cm ³ 以下) (6/28 11:00 現在)	A系：ND(1.7E-01Bq/cm ³ 以下) B系：ND(1.5E-01Bq/cm ³ 以下) (7/26 11:00 現在)	A系：ND(2.5E-01Bq/cm ³ 以下) B系：ND(2.5E-01Bq/cm ³ 以下) (6/28 11:00 現在)	A系：ND(2.5E-01Bq/cm ³ 以下) B系：ND(2.5E-01Bq/cm ³ 以下) (7/26 11:00 現在)
使用済燃料 プール水温度	28.3℃ (6/28 11:00 現在)	36.8℃ (7/26 11:00 現在)	27.7℃ (6/28 11:00 現在)	30.8℃ (7/26 11:00 現在)	27.8℃ (6/28 11:00 現在)	30.5℃ (7/26 11:00 現在)
FPC 貯蔵タンク 水位	2.80m (6/28 11:00 現在)	4.24m (7/26 11:00 現在)	4.12m (6/28 11:00 現在)	3.99m (7/26 11:00 現在)	4.48m (6/28 11:00 現在)	4.22m (7/26 11:00 現在)

号機	4号機		5号機		6号機	
	6月28日	7月26日	6月28日	7月26日	6月28日	7月26日
使用済燃料 プール水温度	24.3℃ (6/28 11:00 現在)	26.0℃ (7/26 11:00 現在)	22.1℃ (6/28 11:00 現在)	21.8℃ (7/26 11:00 現在)	21.3℃ (6/28 11:00 現在)	20.6℃ (7/26 11:00 現在)
FPC 貯蔵タンク 水位	4.28m (6/28 11:00 現在)	2.74m (7/26 11:00 現在)	3.10m (6/28 11:00 現在)	3.00m (7/26 11:00 現在)	2.90m (6/28 11:00 現在)	3.00m (7/26 11:00 現在)

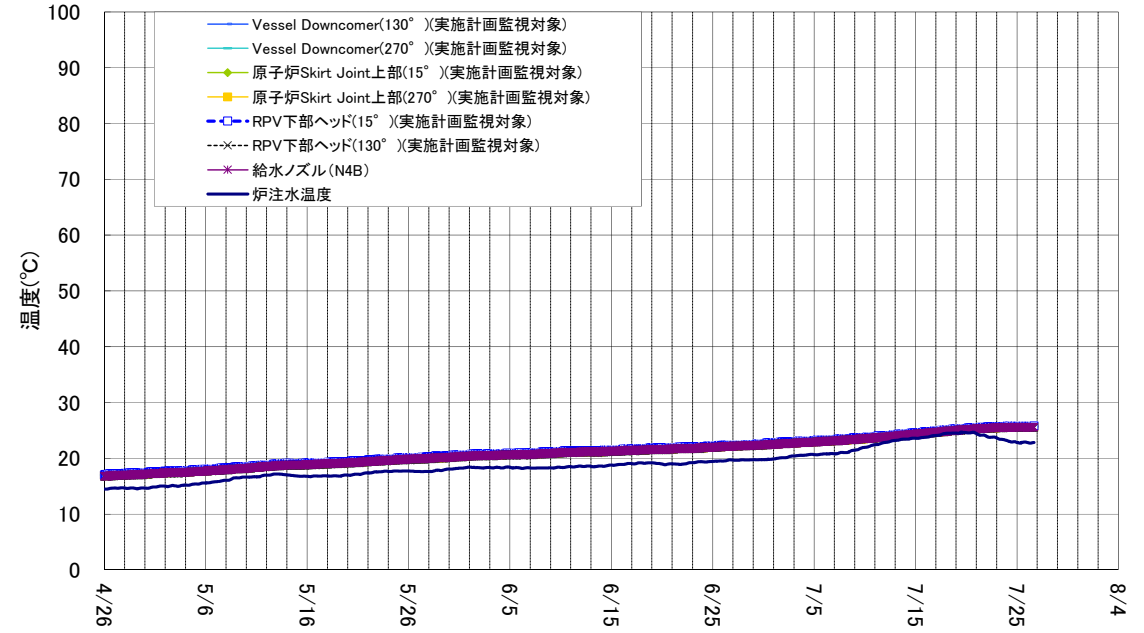
※1: 使用状態の温度・圧力で流量補正した値を記載する。
 ※2: 窒素封入停止中
 ※3: 指示値がマイナスの場合は0.00vol%と記載する。(水素濃度が極めて低い場合は、計器精度によりマイナス表示される場合があるため)
 ※4: 7/19 1号機RPVへの窒素封入について、ジェットポンプ計装ラックラインを用いた運用を開始したことから、既設ラインに加えて同ラインでのデータ採取を開始。

※注水冷却を継続することにより、1～3号機の原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、至近1ヶ月において、約20℃～約35℃で推移。
 格納容器内圧力や格納容器からの放射性物質の放出量等のパラメータについては有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていない。
 以上より、総合的に冷温停止状態を維持しており、原子炉が安定状態にあることを確認。

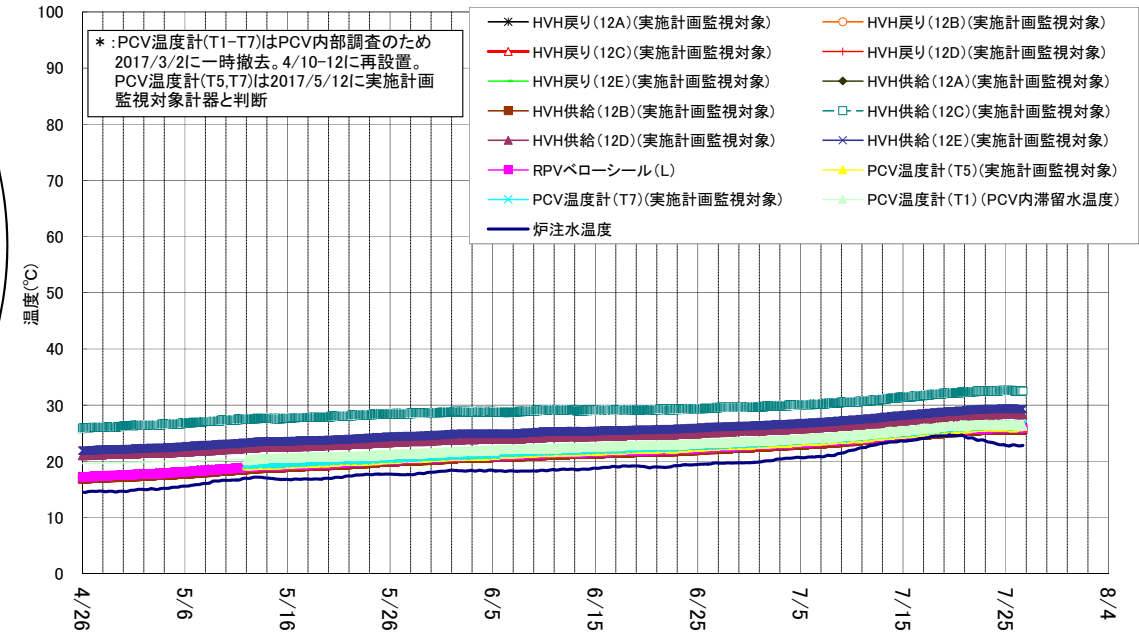
1号機



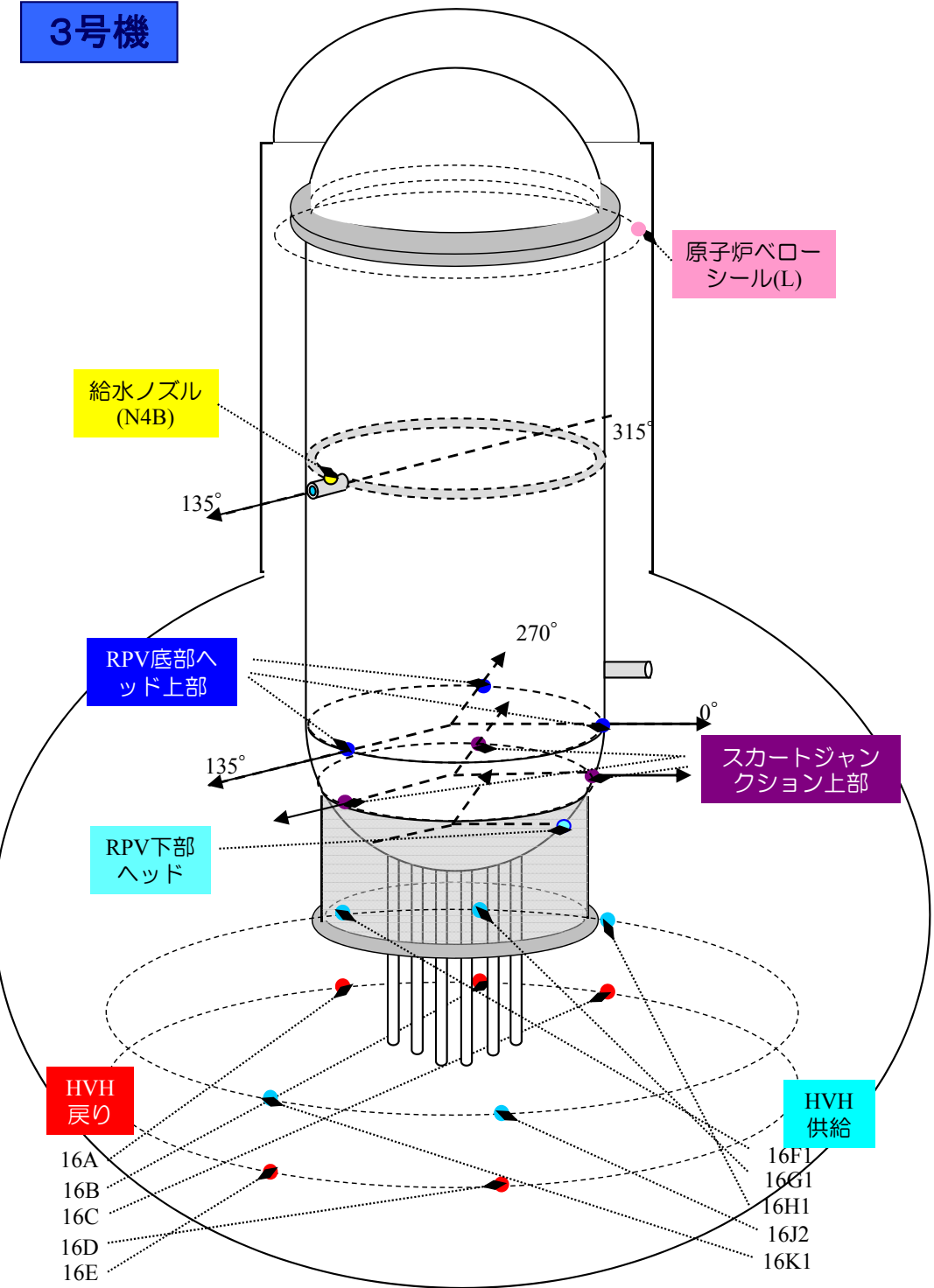
1号機 原子炉压力容器まわり温度(4/26~7/26)



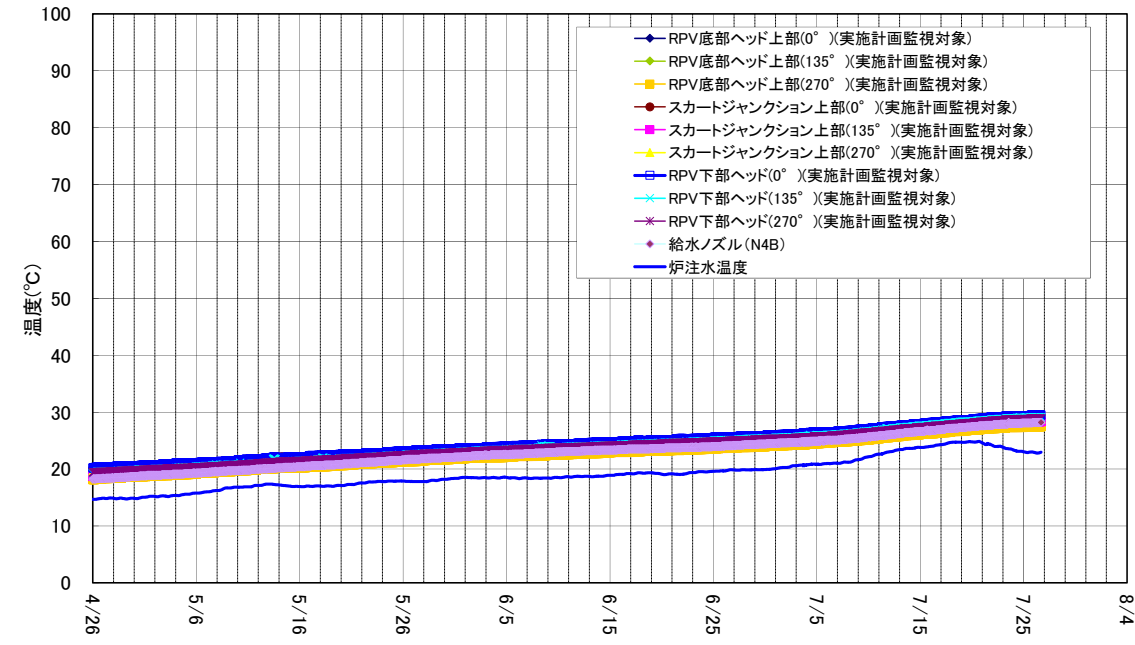
1号機 D/W雰囲気温度(4/26~7/26)



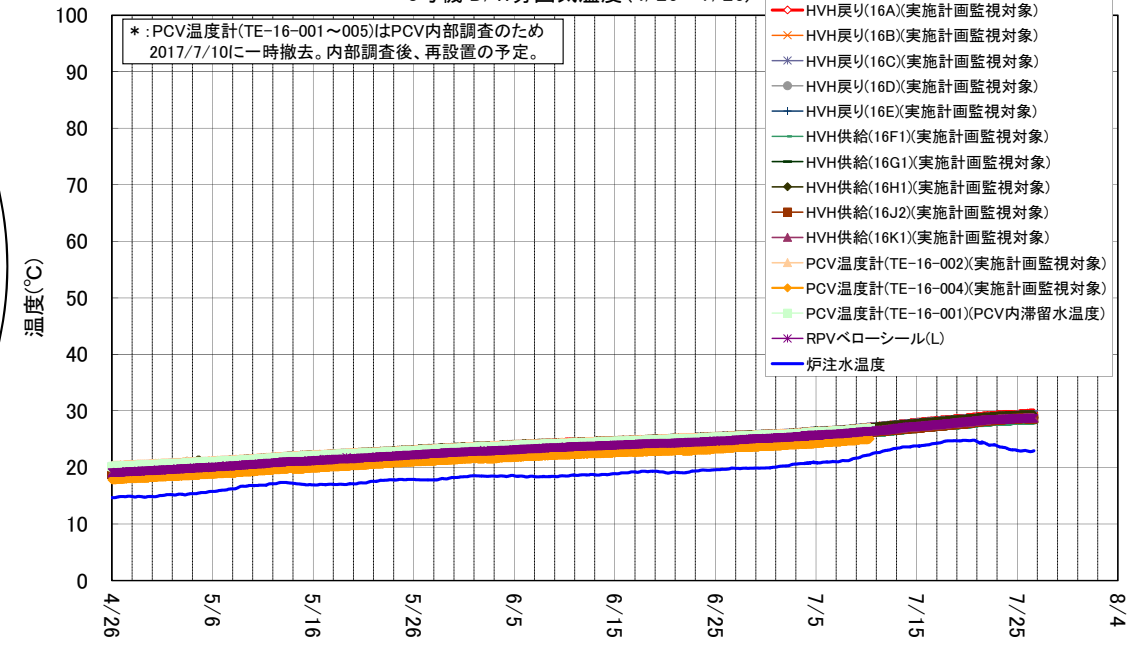
3号機



3号機 原子炉压力容器まわり温度(4/26~7/26)



3号機 D/W雰囲気温度(4/26~7/26)



滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

建屋内滞留水水位及び貯蔵量

- ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
- ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中
- 1~4号機タンク貯蔵量
- ・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中
- 5,6号機滞留水貯蔵量
- ・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり
- 廃棄物発生量
- ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約6,230m ³	TP.443(OP.1,900)
2号機	約12,920m ³	TP.901(OP.2,353)
3号機	約13,160m ³	TP.823(OP.2,260)
4号機	約14,150m ³	TP.934(OP.2,373)
合計	約46,460m ³	

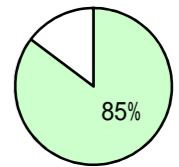
貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約8,470m ³	TP.659(OP.2,021)
高温焼却炉建屋	約3,270m ³	TP.459(OP.1,905)
合計	約11,740m ³	

(合計):+1740[m³/4週](合計):+890[m³/週]

施設	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	754m ³	1,200m ³
SPT(B)	1,452m ³	3,100m ³
合計	+156[m ³ /4週]	+434[m ³ /週]

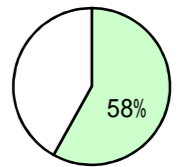
廃棄物発生量

廃スラッジ



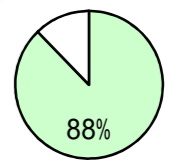
保管量:597/700[m³] 3

使用済ベッセル



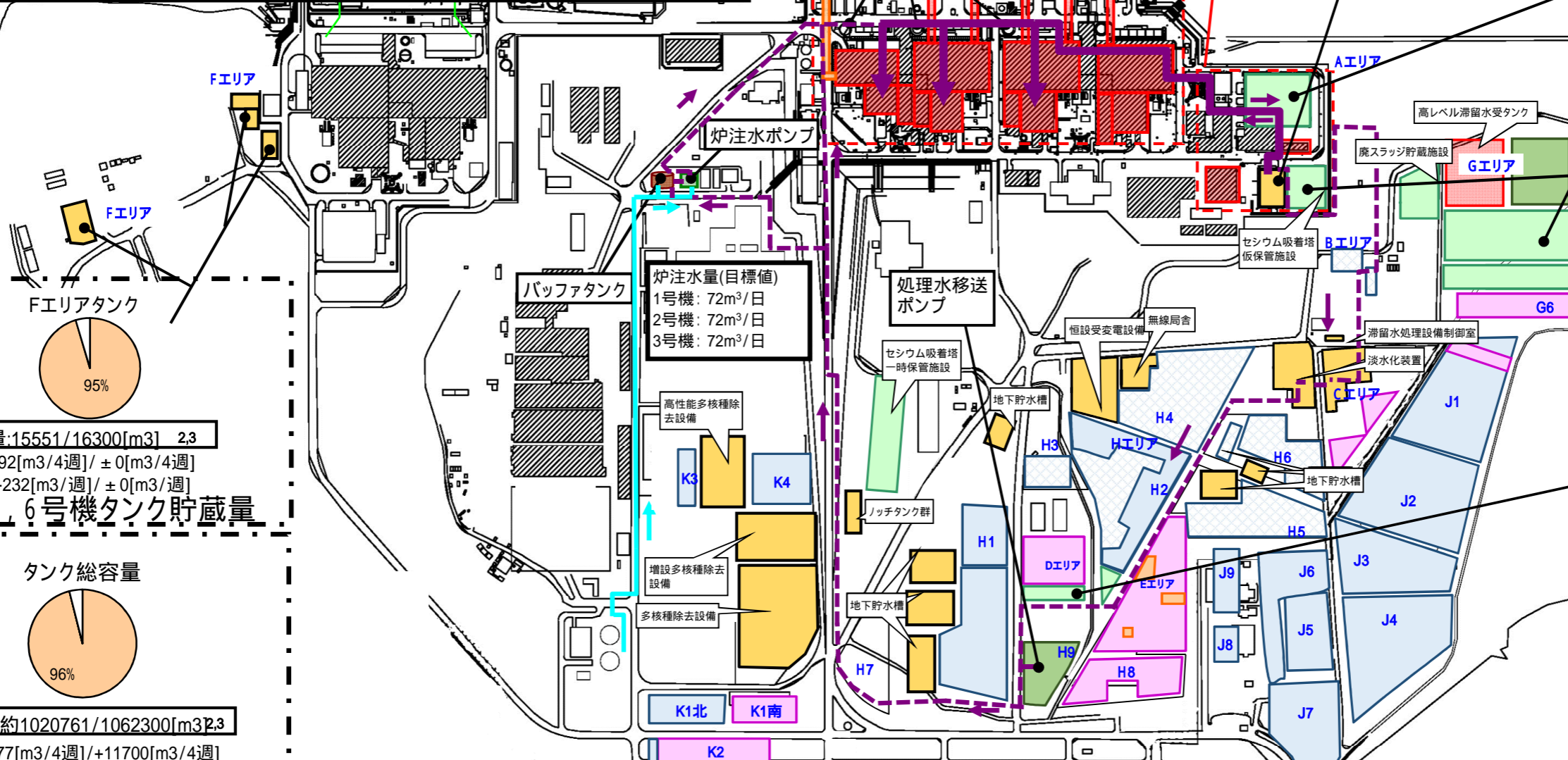
保管量:3700/6368体 1

濃縮廃液

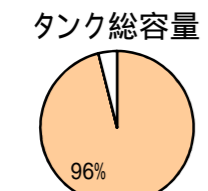


保管量:約9390/10700[m³] 3
水位計0%以上の保管量:9290[m³]
タンク底部~水位計0%の保管量(DS):約100[m³]

- a RO処理水(淡水)
- b 濃縮塩水(残水)
- c 処理水(多核種除去設備等処理水)
- d Sr処理水等
- タンク解体・建設中エリア
- 水処理二次廃棄物(既設)
- 水処理二次廃棄物(追設予定)
- 循環注水ルート(実線:主に使用するルート)
- ろ過注水ルート



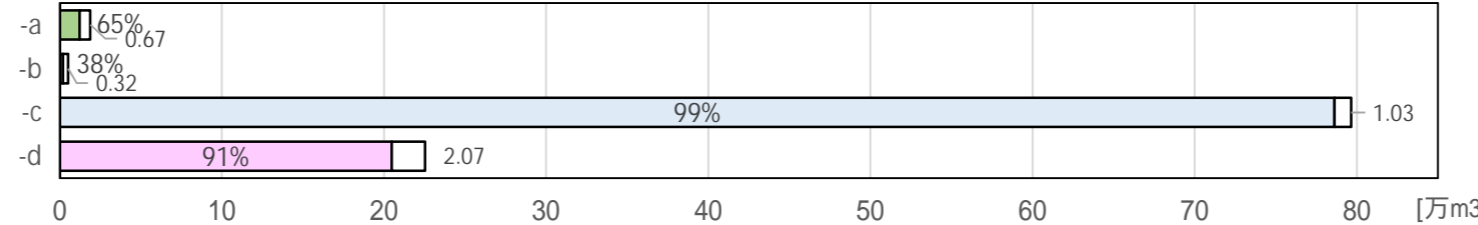
水量:15551/16300[m³] 2,3
+192[m³/4週]/±0[m³/4週]
+232[m³/週]/±0[m³/週]
5,6号機タンク貯蔵量



水量:約1020761/1062300[m³] 2,3
+8377[m³/4週]/+11700[m³/4週]
+2068[m³/週]/±0[m³/週]

タンク貯蔵量合計(+)

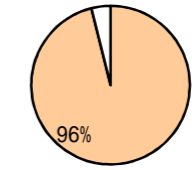
- 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む
- 装置稼働中につき水位が静定しないため参考扱い
- 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)
- 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
- ウェルポイント・地下水ドレン(約150m³/週)、建屋へのその他移送量(約80m³/週)の合計約230m³/週を含む(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
- 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む



水量:約12248/18900[m ³] 2,3	水量:約2000/5200[m ³] 2,3	水量:約786216/796500[m ³] 2,3,4,6	水量:約204746/225400[m ³] 2,3	水量:約1005210/1046000[m ³] 3,4
水位計0%以上の水量:11348[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約900[m ³]	水位計0%以上の水量:約1600[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約400[m ³]	水位計0%以上の水量:784716[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約1500[m ³]	水位計0%以上の水量:200446[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約4300[m ³]	水位計0%以上の水量:998110[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約7100[m ³]
-1670[m ³ /4週]/±0[m ³ /4週] -378[m ³ /週]/±0[m ³ /週]	±0[m ³ /4週]/±0[m ³ /4週] ±0[m ³ /週]/±0[m ³ /週]	+12063[m ³ /4週]/+11700[m ³ /4週] +3307[m ³ /週]/±0[m ³ /週]	-2208[m ³ /4週]/±0[m ³ /4週] -1093[m ³ /週]/±0[m ³ /週]	+8185[m ³ /4週]/+11700[m ³ /4週] +1836[m ³ /週]/±0[m ³ /週]
-a RO処理水(淡水)	-b 濃縮塩水(残水)	-c 処理水 (多核種除去設備等処理済水)	-d Sr処理水等	

1~4号機タンク貯蔵量

1~4号機タンク総容量

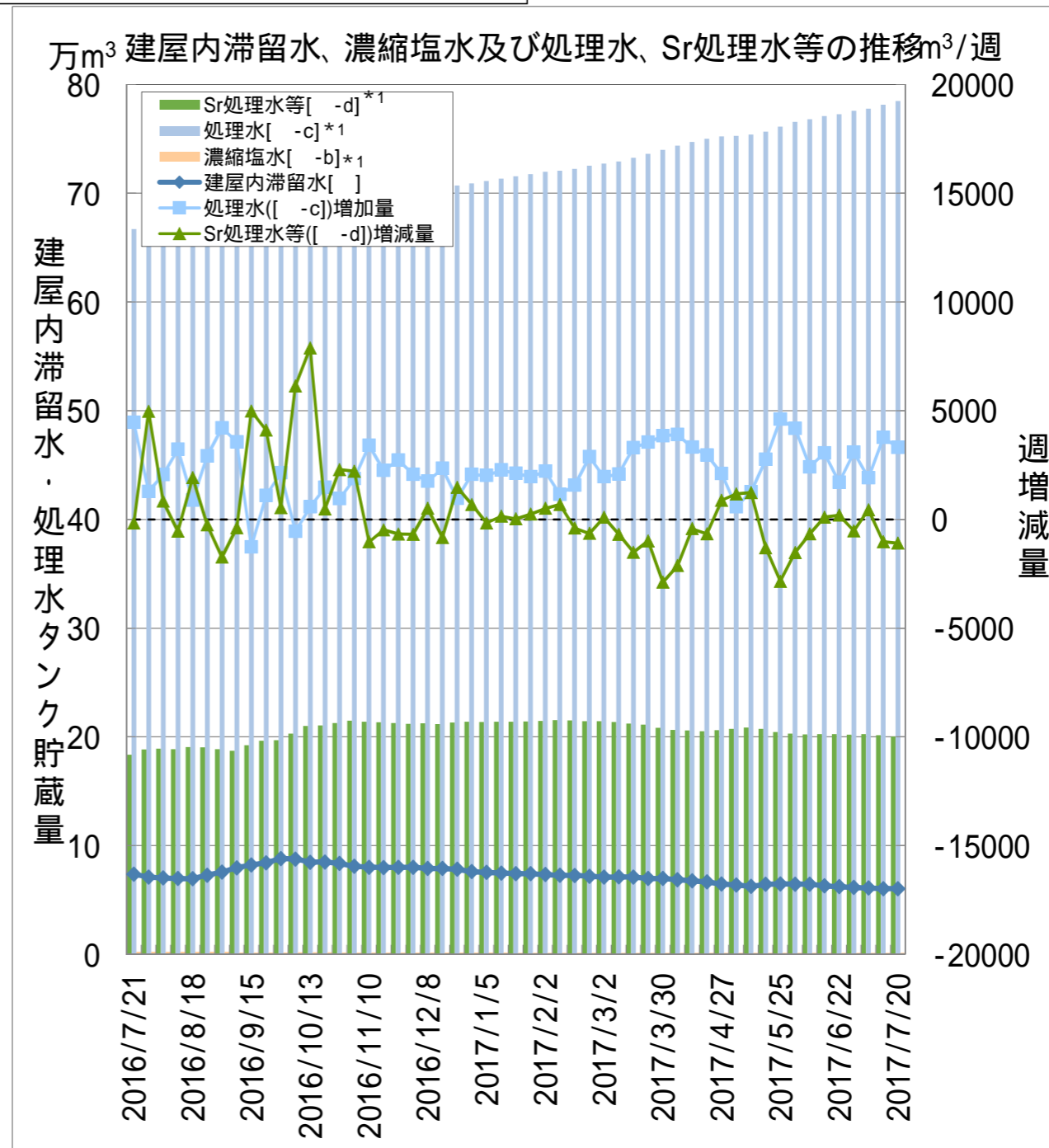
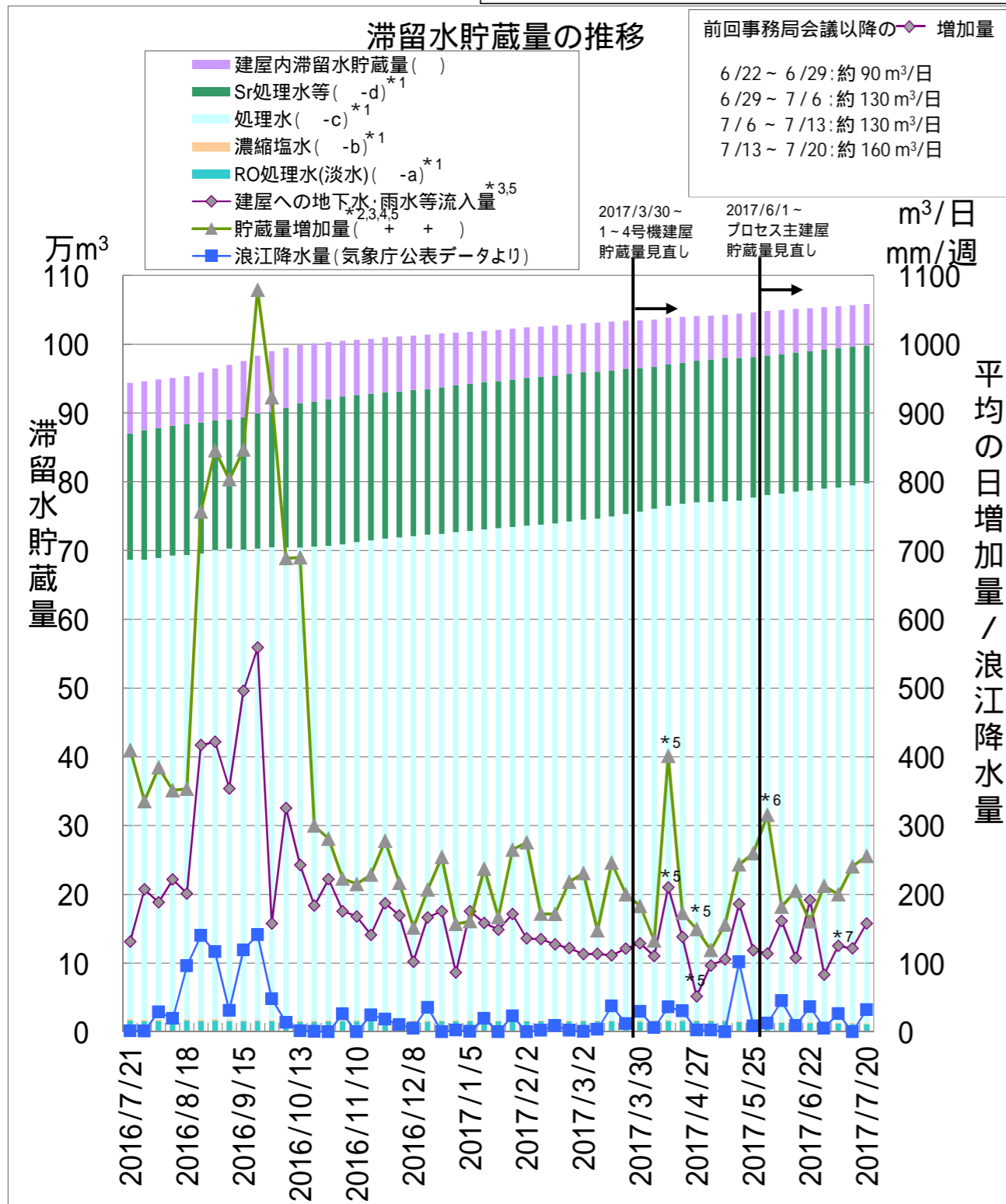


水量:約1065616[m³]
+6361[m³/4週]
+1790[m³/週]

建屋内貯蔵量
+
1~4号機タンク貯蔵量
(+)

タンク堰内水の一時貯留量(*7月24日時点の値を記載)
・ナッチタンク群 約100(±0[m³])/約600[m³]

滞留水の貯蔵状況の推移



：建屋内滞留水貯蔵量 (1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))

：1~4号機タンク貯蔵量

([-aRO処理水(淡水)] + [-b濃縮塩水] + [-c処理水] + [-dSr処理水等])

：タンク底部から水位計0%までの水量 (DS)

*1: 水位計0%以上の水量

*2: 2017/1/19 濃縮塩水の残水量再評価により水量見直しを行ったため補正

*3: 「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」の評価に用いている「建屋保有水増減量」は建屋水位計から算出しており、下記評価期間において建屋水位計の校正を実施したため、当該期間の「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」は想定される値より少なく評価されている。(2016/9/22 ~ 9/29:3号機タービン建屋)

*4: 気温変化に伴うタンク貯蔵量の変動の影響を含む

*5: 集中RW建屋の貯蔵量算出に必要な水位に応じた断面積(評価値)の不確かさによるものと推定。2017/6/1の集計値以降、集中RW建屋の貯蔵量算出に必要な水位に応じた断面積(評価値)を見直し

*6: 雨水処理設備で処理できない雨水のSr処理水タンクへの移送量(2017/5/25 ~ 6/1:700m³/週)を含む。

*7: 2017/7/5に実施した調査結果から、1号機T/B未調査エリアの水量が想定水量よりも少ないことが判明したため補正

処理水	累積処理水	期間処理水		定格処理量
	[m ³]	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}	[m ³ /日]
既設多核種除去設備 ^{注2)}	359,468	1,353	193	750以上
増設多核種除去設備 ^{注2)}	354,733	1,954	279	750以上
高性能多核種除去設備	102,556	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	1,128	0	0	50
Sr処理水等	期間処理水		定格処理量	
	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}	[m ³ /日]	
セシウム吸着装置	1,427	204	600	
第二セシウム吸着装置			1200	

注1) 週間の平均値
注2) 既設・増設多核種除去設備処理水の一部は、残水があるRO濃縮塩水タンクに移送し、Sr処理水等として貯

各エリア別タンク一覧

(2017年7月20日 現在)

※下線部は前回報告からの変更点

1～4号機用貯蔵タンク

堰エリア	基数	1基あたり 容量(公 称) [m ³]	タンク型	貯蔵水	備 考
C東	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	
C西	8	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	
D	31	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
E	44	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(A, C)	
	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	濃縮塩水	残水処理中
G1	72	100	鋼製横置きタンク(溶接)※土中埋設	RO処理水(淡水)	
G3東	24	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
G3西	7	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
	33	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C, R)	
G3北	6	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
G4南	16	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	16基の内、2基は未使用
G4北	6	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
G5	17	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
G6北	19	500	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	漏えいが確認されたため、1基使用停止 20-1=19
G6南	8	500	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	
G7	10	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
H1	63	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
H1東	24	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
H2	31	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
H8北	5	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
H8南	11	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	
H9	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	RO処理水(淡水)	
H9西	7	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	RO処理水(淡水)	
J1	90	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
	2	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水 (高性能検証試験装置)	
	8	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
J2	42	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
J3	22	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
J4	30	2900	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
	5	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
J5	35	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
J6	38	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	

堰エリア	基数	1基あたり 容量(公 称) [m3]	タンク型	貯蔵水	備 考
J7	42	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
J8	9	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
J9	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
K1北	12	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	
K1南	10	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	
K2	2	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
	26	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	
K3	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	
K4	35	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
多核種除去 設備	4	1100	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
高性能多核 種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	
増設多核種 除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	

合計 899

Sr処理水等内訳 C:セシウム吸着装置等、M:モバイル型ストロンチウム除去装置等

R:RO濃縮水処理設備、A:多核種除去設備等

濃縮廃液

D	10	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	濃縮廃液	
H2	3	100	鋼製横置きタンク(溶接)	濃縮廃液	

高濃度滞留水受けタンク

G1	28	100	鋼製横置きタンク(溶接)※土中埋設	高濃度滞留水	非常用の受けタンクであり、現在未使用
----	----	-----	-------------------	--------	--------------------

5. 6号機用貯蔵タンク

	基数	1基あたり 容量(公 称) [m3]	タンク型	貯蔵水	備 考
F2	6	35	鋼製角型タンク(溶接)	5, 6号機滞留水	Aタンク
	6	42	鋼製角型タンク(溶接)	5, 6号機滞留水	Aタンク
	4	110	鋼製角型タンク(溶接+フランジ接合)	5, 6号機滞留水	Bタンク
	5	160	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	Cタンク
	2	200	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	Cタンク
F1	3	299	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	hijタンク
	18	508	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	hijタンク
	5	1100	鋼製円筒型タンク(溶接)	5, 6号機滞留水	Kタンク

合計 49

(参考)

地下水バイパス用タンク

H3	9	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	地下水	
----	---	------	------------------	-----	--

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.7.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
1-1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs134: <1.0E1 Cs137: 2.1E1 全β: 2.6E1 H3: 1.0E2 (2015.11.2) 【1階】 Cs134: 1.1E1 Cs137: 4.0E1 全β: 4.1E1 H3: 1.1E2 (2015.11.2)
1-2	2号機R/B	2号機R/B	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	[上屋] Cs134: 200~340 Cs137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr90: 10~20 H3: ND(<100) (2015.1.16)
2	5,6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5,6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約10,000 (2015.4.16時点)	Cs134: 2.6E1 <u>1.1E1</u> Cs137: 6.5E1 <u>7.0E1</u> Co60: 13 (2014.2.6) = <u>(2017.5.24)</u>
3	5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約5000 (2015.4.16時点)	Cs134: 2.6E1 <u>7.7E0</u> Cs137: 6.5E1 <u>4.3E1</u> Co60: 1.3E1 (2014.2.6) = <u>(2016.10.3)</u>
4-1	吸着塔一時保管施設(HIC)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	0 (ボックスカルバート内の水は拭き取り実施済み)	【No.172(AJ5)蓋外周部(他調査中)】 Cs134: 1.9E+3 Cs137: 6.8E+3 全β: 3.0E+6 (2015.4.2)
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs137: 2.0E3~1.6E7 Sr90: 5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)
5	No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	・No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	屋外(35m盤)	約1(一部1cm残水あり)	【No.1ろ過水タンク】 Cs-134: 2.3E+03 Cs-137: 4.3E+03 全β: 6.6E+07 (2013.11.19)
6	4000tノッチタンク(角型タンク)	・4000tノッチタンク	35m盤タンクエリア	<u>約100</u> <u>(2017.7.24時点)</u> 約900 (2015.6.30時点)	【3000tノッチタンク】 水抜き済 【1000tノッチタンク】 Cs134: 1.7E1 <u>3.6E0</u> Cs137: 6.1E1 <u>2.7E1</u> 全β: 9.6E4 <u>2.2E5</u> (2015.6.3) = <u>(2017.6.1)</u>
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃廃水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	35m盤タンクエリア(Cエリア)	約85 (2015.6.9時点)	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs134: 1.7E4 Cs137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)
8	淡水貯留タンク(G1エリア地下タンク)	・淡水貯留タンク(横置きタンク)	35m盤タンクエリア	約6000 (2015.4.16時点)	【淡水化装置出口水】 H3: 8.7E5 全β: 1.5E4 (2012.9.18)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.7.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
9	5, 6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・5号機逆洗弁ピット ・6号機逆洗弁ピット	5, 6号機スクリーン近傍	(5号機吐出弁ピット) 約550 (6号機吐出弁ピット) 約850	【5号機吐出弁ピット】 (2015.10) <u>(2016.10.5)</u> Cs134: 1.3E0 <u>ND</u> Cs137: 4.8E0 <u>3.4E0</u> 【6号機吐出弁ピット】 (2015.10) <u>(2016.10.5)</u> Cs134: 1.1E0 <u>ND</u> Cs137: 5.6E0 <u>3.7E0</u> 【5号逆洗弁ピット】 (2015.10) <u>(2016.10.3)</u> Cs134: 5.1E0 <u>3.0E0</u> Cs137: 2.4E1 <u>1.9E1</u> 【6号逆洗弁ピット】 (2015.10) <u>(2016.10.3)</u> Cs134: 4.3E0 <u>1.5E0</u> Cs137: 1.7E1 <u>1.1E1</u>
10	1～4号機T/B屋根	・1号機T/B ・2号機T/B	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs134: 2.5E2～7.4E2 <u>1.2E2</u> Cs137: 9.8E2～2.7E3 <u>9.7E2</u> 全β: 1.4E3～6.9E3 <u>1.1E3</u> (2014.11.26) <u>(2017.6.19)</u> 【2号機T/B上屋】 Cs134: 1.2E2～3.0E3 <u>7.9E1</u> Cs137: 4.2E2～1.0E4 <u>5.4E2</u> 全β: 5.0E2～2.9E4 <u>5.0E2</u> (2014.12.1) <u>(2017.6.19)</u>
11	1号CSTタンク (溶接タンク)	・1号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約740 (2016.10.26)	Cs134: 2.9E+4 Cs137: 1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)
12	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2260 (2015.6.17現在)	Cs134: 1.7E+4 Cs137: 5.7E+4 全β: 4.2E+6 (2015.3.23)
13	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2120 (2015.6.17現在)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 (2017.5.18) <u>(2017.6.13)</u> H3: 1.0E6 <u>1.2E6</u> Sr90: ND <u>ND</u> 【CST貯留水】 (2015.7.16) Cs134: 2.1E+3 Cs137: 8.0E+3
14	4号CSTタンク (溶接タンク)	4号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2000	【プラント復水】
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	35m盤タンクエリア	一※ (2016.4.21)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.0E6 (2017.4.21) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.2E5 <u>9.9E4</u> (2017.6.21) <u>(2017.7.19)</u> H3: ND (2017.6.7)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	35m盤タンクエリア	約300 (2017.3.29)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 2.0E6 (2017.4.21) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 4.7E4 <u>3.0E4</u> (2017.6.21) <u>(2017.7.19)</u> H3: 4.1E2 (2017.6.7)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	35m盤タンクエリア	約150 (2016.4.21)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 4.1E6 (2017.4.21) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 2.6E4 <u>2.9E4</u> (2017.6.22) <u>(2017.7.20)</u> H3: 4.0E2 (2017.6.1)

※: 水位計の計測限界水深未満(残水あり)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.7.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	35m盤タンクエリア	—※ (2016.4.21)	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β : 3.9E4 (2016.9.6)
19	地下貯水槽	地下貯水槽No. 5	35m盤タンクエリア	撤去完了	【使用実績なし(水張試験のみ)】 —
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	35m盤タンクエリア	約120 (2016.4.21)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β : 1.1E7 (2016.9.6) (参考: 漏えい検知孔水) 全β : ND (2017.6.22) 2.6E1 <u>(2017.7.20)</u> H3: ND (2017.6.8)
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	35m盤タンクエリア	約90 (2016.4.21)	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β : 1.0E2 (2016.9.6)
22	1-4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約2~1200 (2016.10~2017.1)	Cs134: 1.4E1~2.1E2 Cs137: 8.1E1~1.3E3 全β : 1.0E0~1.6E3 H3: ND~5.7E2 (2016.10~2017.1)
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側	約1600 (2015.11)	Cs134: 1.2E1 Cs137: 8.1E1 全β : 8.3E1 H3: ND (2016.10)
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約3000	Cs134: 5.2E0 Cs137: 4.2E1 全β : 4.4E1 (2017.5.23)
24-2	2号機海水配管トレンチ	・2号機海水配管トレンチ	2号機タービン建屋海側	0 (2015.6.30時点)	—
25-1	3号機海水配管トレンチ	・3号機海水配管トレンチ	3号機タービン建屋海側	0 ^(注) (2015.7.30時点) (注)立坑D上部を除く	— 【立坑D】 Cs134: 5.6E5 Cs137: 1.9E6 全β : 4.2E6 H3 : 1.5E5 (2015.2.27)
25-2	4号機海水配管トレンチ	・4号機海水配管トレンチ	4号機タービン建屋海側	0 ^(注) (2015.12) (注)建屋接続部及び建屋接続部近傍の開口部を除く	—
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約790 (2016.10)	Cs134: 1.4E2 Cs137: 8.4E2 全β : 1.1E3 H3: ND (2016.10)
27	廃棄物処理建屋間連絡ダクト	・廃棄物処理建屋間連絡ダクト	プロセス主建屋北側	充填完了 約6 (2016.10)	Cs134: 2.1E3 Cs137: 1.2E4 全β : 1.5E4 (2016.10) 二 二 二 <u>(2017.7)</u>
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1-4号機周辺	約7~820 (2015.10~2016.1)	Cs134: ND~2.2E2 Cs137: ND~9.2E2 全β : 5.1E1~1.4E3 H3: ND~3.1E2 (2015.10~2016.1)

※: 水位計の計測限界水深未満(残水あり)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.7.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
29	1～4号機サブドレンピット No.15,16(未復旧ピット)	・サブドレンピットNo.15,16	1～4号機周辺 「未復旧」	約20m ³	No.16 Cs134:2.2E5 1.0E5 Cs137:1.7E6 8.1E5 全β: 2.0E6 8.3E5 H-3: 2.6E4 2.7E3 (2017.5.29) (2017.6.22)
30	その他1～4号機サブドレン(ディー プウェル含む)(未復旧ピット)	・1号機～4号機サブドレン	1～4号機周辺 「未復旧」	約15/ピット	No.47,48 Cs134:ND～3.9E1 Cs137:4.8E1～9.6E1 全β:7.9E1～2.8E2 H-3:ND (2014.11.10)
31-1	1～4号機逆洗弁ピット	・1号機逆洗弁ピット ・2号機逆洗弁ピット ・3号機逆洗弁ピット ・4号機逆洗弁ピット	1～4号タービン建屋海 側	(1号機逆洗弁ピット) 約300 (2016.7.11) (2号機逆洗弁ピット) 約900 (2016.7.11) (3号機逆洗弁ピット) 約700 (2016.7.11) (4号機逆洗弁ピット) 約1300 (2016.7.11)	(1号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:4.4E3 Cs137:2.5E4 全β: 2.9E4 H3: 2.6E2 (2号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:1.4E2 Cs137:8.0E2 全β: 9.3E2 H3: ND (3号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:2.4E3 Cs137:1.2E4 全β: 1.5E4 H3: 5.3E2 (4号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:2.3E2 Cs137:1.2E3 全β: 1.3E3 H3: ND
31-2	1-4号機吐出弁ピット	・1号機ポンプ室循環水ポンプ吐出 弁ピット ・4号機ポンプ室循環水ポンプ吐出 弁ピット	1～4号タービン建屋海 側	【1号機吐出弁ピット】 0 (2015.11) 【4号機吐出弁ピット】 0 (2015.10)	【1号機吐出弁ピット】 — 【4号機吐出弁ピット】 —
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1～4号タービン建屋海 側	約3800	【放水路上流側立坑】 (2017.6.23) (2017.7.24) Cs134:5.7E1 9.6E1 Cs137:4.1E2 8.0E2 全β:5.0E2 1.1E3 H3: ND ND
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2-4号機タービン建屋 海側	約3000	【放水路上流側立坑】 (2017.6.23) (2017.7.24) Cs134: 5.1E2 1.2E2 Cs137: 3.7E3 9.3E2 全β: 4.2E3 1.6E3 H3: 1.5E2 2.7E2
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3-4号機タービン建屋 海側	約600	Cs134:2.6E2 Cs137:1.1E3 全β:1.7E3 H3:9.0E2 (2015.6.10)
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4500	Cs134:7.2 Cs137:23 I-131:<4.3 Co-60:<4.2 全γ放射能:3.1E+1 (2014.5.23)
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約1000	Cs134:ND ND Cs137:ND ND Co60:1.9E+1 2.1E1 (2015.6.4) (2017.6.14)
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約1250	Cs134:ND ND Cs137:ND ND Co60:5.3E2 2.9E1 (2015.6.16) (2017.7.6)
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機スチームドレン配管トレン チ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5～6号機周辺	約1～1900 (2015.10～2016.1)	Cs134:ND～2.2E2 Cs137:ND～9.9E2 (2015.10～2016.1)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.7.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
39	5, 6号機サブドレン	・5,6号機サブドレンピット	5～6号機周辺 ※「復旧対象」	約15/ピット	Cs134: ND～0.34 Cs137: ND～0.95 全β: ND～2.6 H-3: ND～25 (採水期間: 2014.8～2014.11)
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs134: 1.0E+1 Cs137: 1.4E+1 Co-60: <6.0E-01 全γ放射能: 2.4E+1 (2012.1.18)
41	SPTタンク(1～4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1～4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2800 (2015.3.25時点)	Cs134: 8.0E+4 Cs137: 1.6E+5 Co60: 6.5E+2 (2013.8.27)
42	集中ラド周リサブドレン	・集中ラド周リサブドレン	主プロセス建屋等各建屋周辺	約15/ピット	Cs134: ND～53 Cs137: ND～130 全β: ND～240 H-3: 14～210 (2013.12.12 ～2013.12.19) ND ND 二 二 (2017.7.13)
43	メガフロート	・メガフロート	港湾内	約9000 (2017.3)	No.5VOID Cs134: ND Cs137: 2.7 Sr90: ND H3: ND (2017.2.16)
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(10M盤)	約850	Cs134: 2.1 Cs137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5～6号機	約6000 (2015.6時点)	【5号機】 Cs134: ND ND Cs137: 2.0E0 ND H3: 1.3E2 ND 全β: ND ND (2015.6.17) (2017.5.22) 【6号機】 Cs134: 5.2E0 1.3E0 Cs137: 1.7E1 6.1E0 H3: 5.3E2 3.5E2 全β: 1.4E2 1.5E1 (2015.6.18) (2017.5.23)
46	排気筒ドレンサンピット	・1/2号排気筒ドレンサンピット ・3/4号排気筒ドレンサンピット ・5/6号排気筒ドレンサンピット ・集中Rw排気筒ドレンサンピット	1～4号機周辺 5/6号機周辺	1/2号サンピット 約0.3※ 3/4号サンピット 約2 5/6号サンピット 約5 集中Rwサンピット 約20 ※適宜溜まり水の移送を実施	【1/2号サンピット】 (2017.3.14) (2017.6.19) 全β: 2.6E7 1.8E7 Cs134: 2.3E6 2.6E6 Cs137: 1.7E7 2.1E7 【3/4号サンピット】 (2016.3.17) 全β: 1.3E3 Cs134: 2.4E2 Cs137: 1.1E3 【5/6号サンピット】 (2015.9.16) 全β: 7.6E1 Cs134: 1.2E1 Cs137: 4.7E1 【集中Rwサンピット】 (2015.12.17) 全β: 7.6E2 Cs134: 1.5E2 Cs137: 6.6E2

1号機未調査エリアの調査結果を踏まえた地下水等流入量について

2017年7月27日

東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

1号機未調査エリアの調査結果について

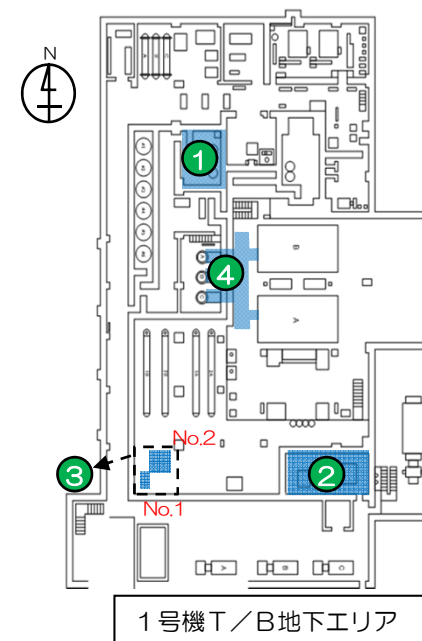
滞留水が残存している可能性のある以下のエリアについて、滞留水の有無を確認し、建屋滞留水貯蔵量が実態よりも約150m³余分に計上していることを確認した。

■対象エリア（1号機T／Bエリア）

- ①復水脱塩装置樹脂貯蔵タンク室
- ②主油タンク室
- ③電気マンホール
- ④復水ポンプ配管トレンチ

エリア	調査前の水量(m ³)※	調査後の水量(m ³)
①	74	0
②	31	0
③	16	14
④	61	22
合計	182	36

※ 調査前の水量は、各エリアを満水と仮定し算出した。
※ 調査の結果、146m³余分に計上されていたことがわかった。



1号機未調査エリアの調査結果を踏まえた地下水等流入量について

- ・今回、余分に計上していた建屋滞留水貯蔵量約150m³を補正し、6/29～7/6の地下水流入量を評価した。
- ・補正方法としては、6/29時点の建屋滞留水貯蔵量から余分計上の約150m³を引き、7/6時点の貯蔵量と比較し地下水流入量を算出

7/6時点	補正前	補正後
建屋貯蔵量の変化量 (6/29時点との比)	約+220m ³	約+370m ³
地下水等流入量	約110m ³ /日	約130m ³ /日

【地下水等流入量の評価式】

$$\begin{aligned} \text{(地下水等流入量)} &= \text{(建屋変化量)} - \text{(原子炉注水量)} \\ &\quad - \text{(その他移送量)} + \text{(ポンプ移送量)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(建屋変化量)} &= \text{(今週の建屋貯蔵量)} - \text{(先週の建屋貯蔵量)} \\ &= \text{(建屋貯蔵量の変化量)} + \text{(未調査エリアの変化量)} \\ &\quad \text{今回の補正対象} \end{aligned}$$